

むかしむかし、ある町に、アラジンという
まずしい青年がいた。

ある日、遠い国の悪いまほう使いが
やってきて、アラジンに言った。

「アラジン。じつは、お前はえらばれた
人間で、大切なやくめがある」





まほう使いは、アラジンを
町のはずれまでつれてゆくと、
じゅもんをとなえはじめた。
すると、急に地面がグラグラゆれ出し、
：足元に、大きなあながあいた。

「あなのおくにある
ランプをとってくるのだ。」
まほう使いは、
アラジンの指に指わをはめた。
「これがお前のお守りだ。」



アラジンは、まほう使いをしんじて、
深いあなに向かって歩き出した。

あなのおくは、ずっと下まで

かいだんがつづいていた。

そこには美しい庭園があつて、

…古ぼけたランプがあつた。

「これだな」

アラジンはランプを大切にしまいこんだ。



あなの入り口ではまほう使いが今か今かと待ちかまえていた。

「アラジン、よくやったぞ。早くそのランプをわたせ」

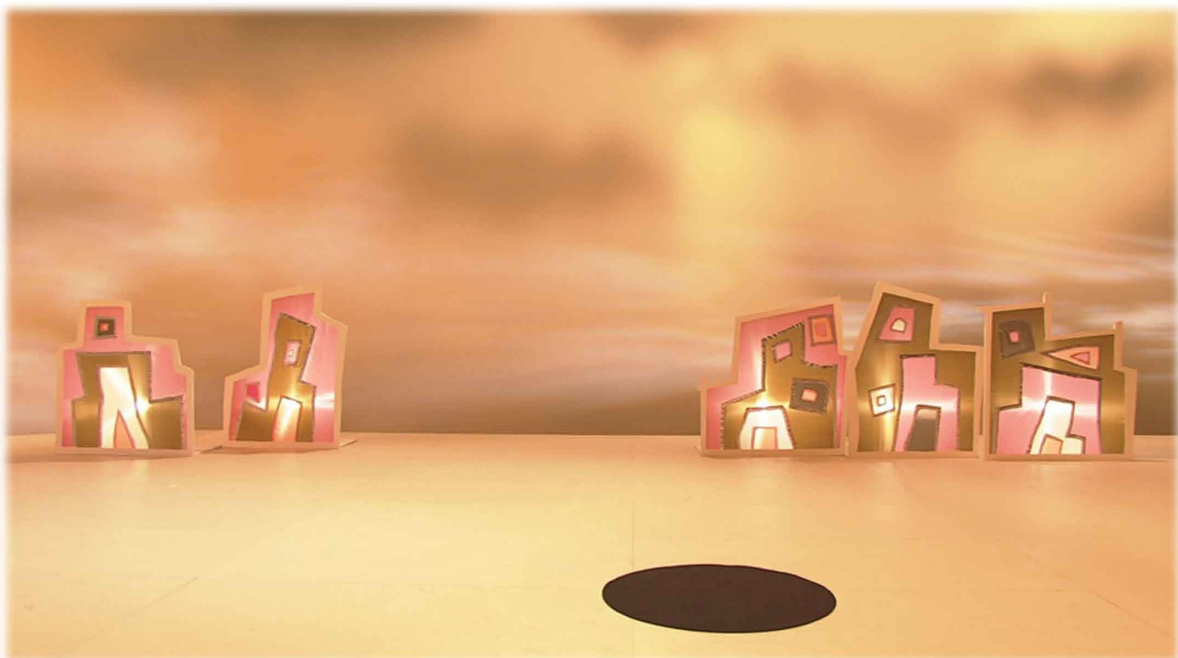
「外に出たらわたすよ。オレの手をひっぱっておくれよ」

まほう使いはげきどした。

「さてはランプをわたさないつもりだな?!」

そして、のろいをかけて

入り口をふさいでしまった。



アラジンは、真っ暗やみに取りのこされ、
なすすべもなく、三日がすぎた。

アラジンは思わず、いのるように手を合わせた。

すると…目の前にとつぜん大きなま人があらわれた。

「お前は一体何者だ?!」

「ご主人様、あなたののぞみは何でもかなえます。」

「じゃあまず、オレをここから外へ出してくれ」

「かしこまりました」

と、つぎのしゅん間…アラジンは

なんと、元の場所に立っていた。



アラジンは家に帰った。ところが
家には、食べるものがなかった。

そこでアラジンは、ランプを売ることに
して、きれいにみがき始めた。すると…



「ご主人様。なにかご用でしょうか？」
指わのま人より、何倍も大きなま人だった。



ランプのま人は、アラジンのねがいを
かたっぱしからかなえてくれた。

「食べものを持ってこい！」

「かしこまりました」

アラジンは三日かけて平らげた。

そして次に…





「ほうせきを金のはち40こに入れて

40人の男に持たせ、40人の女につきそわせろ」

「かしこまりました」

アラジンは行列をひきいてきゅうでんに行き、

おひめ様とのけっこんを申しこんでみとめてもらった。

アラジンとおきさきは、

新しいきゅうでんをたて、

幸せにくらした。

めでたしめでたし、…とはならなかった。



ある日のこと。町に、みょうな男があらわれた。

「古いランプと新しいランプ、

ただで取りかえますよ〜」

きゅうでんでは、おきさきがるす番をしていた。

「そうだ、おっとの部屋に、ずいぶん

古ぼけたランプがあつたわ！」

おきさきは、古いランプを、

新しいランプと交かんしてしまった。



もちろん、それは、

アラジンの大切なまほうのランプだった。

そして、そのみょうな男は、その昔、

アラジンを地下にとじこめた、

あのまほう使いだった。

「ご主人様、何かご用ですか？」

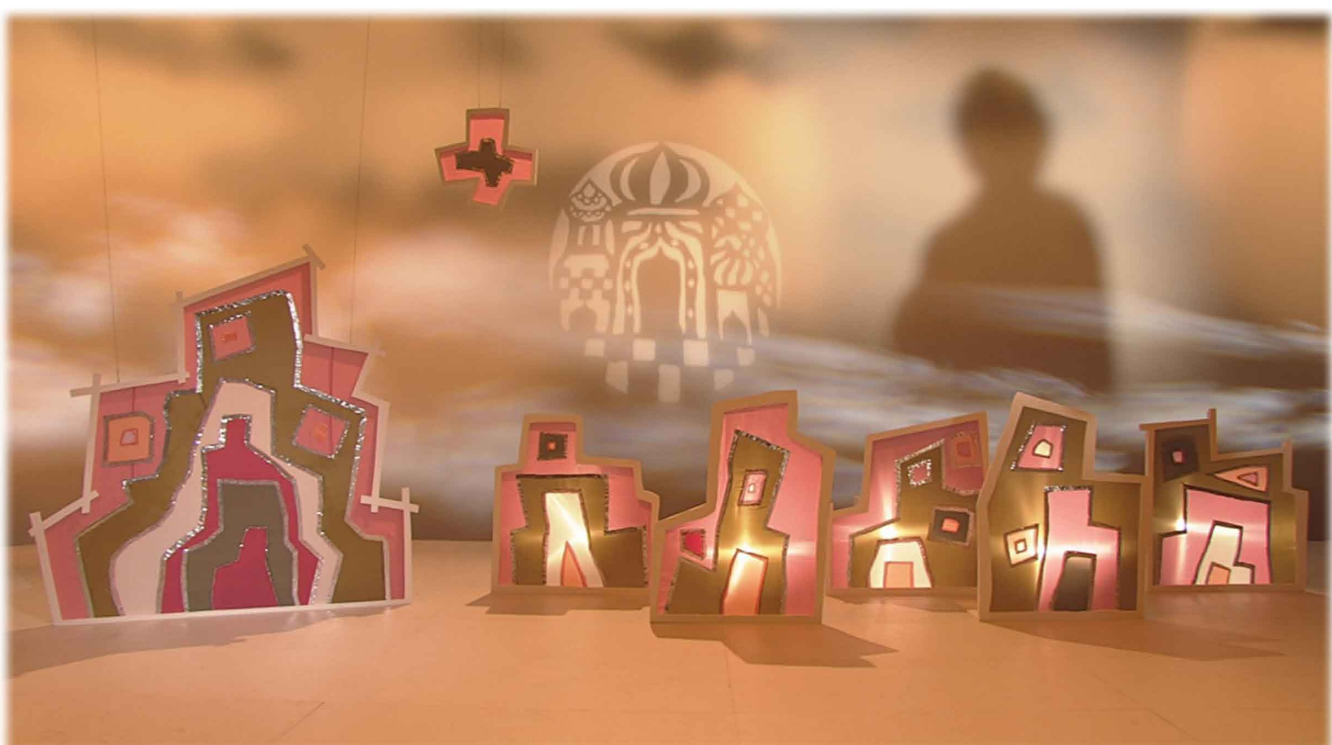
「えへん、アラジンのきゅうでんとおきさきを、

わたしの国まで運び去っておくれ」

「かしこまりました」

きゅうでんは、おきさきもろとも、

いっしゅんにして消えてしまった。



アラジンは悲しみにくれた。

「ああ、ランプさえあれば…」

アラジンは思わず手を合わせていのった。

すると…

「ご主人様、何かご用ですか？」

指わのま人だった。

「おお、お前のことをすっかり

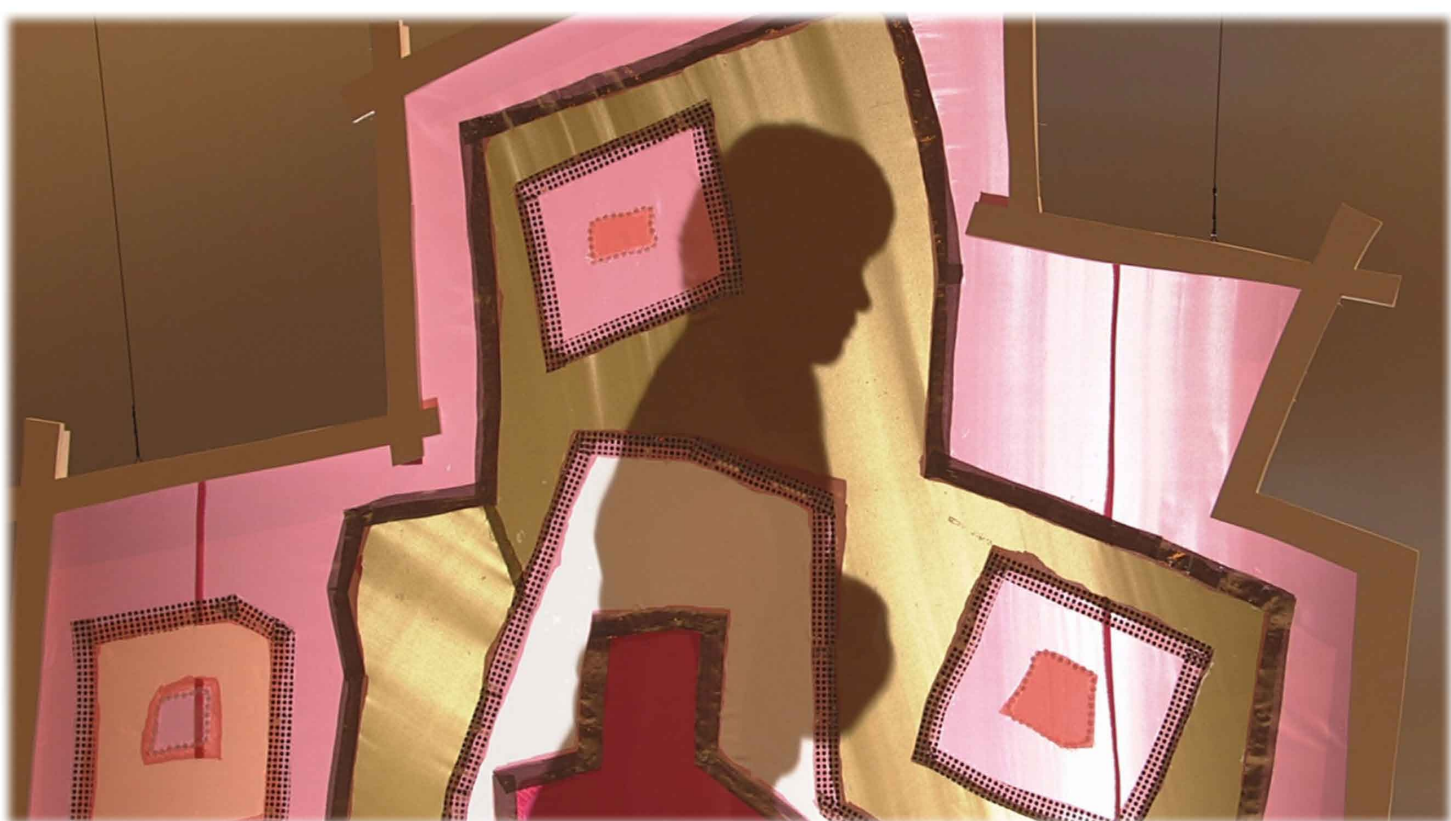
わすれていたよ」

「どうぞご命令を」

「それじゃあ、わたしのつまがいる所まで

つれて行っておくれ」

「かしこまりました」



きゆうでんは、遠くはなれたまほう使いのくにに
あつた。まほう使いは、いつもランプを
ふところに入れていた。そして毎日おきさきに
けつこんを申しこんでは、まるで相手に
されずにいた。そこでアラジンは、
おきさきとあることをたくらんだ。

あるばん、おきさきは、にこにこしながら
まほう使いにお酒を飲ませた。

まほう使いは、いい気分だよっぱらい…
かんぜんにねむってしまった。

お酒の中に、薬をしこんでおいたのだ。

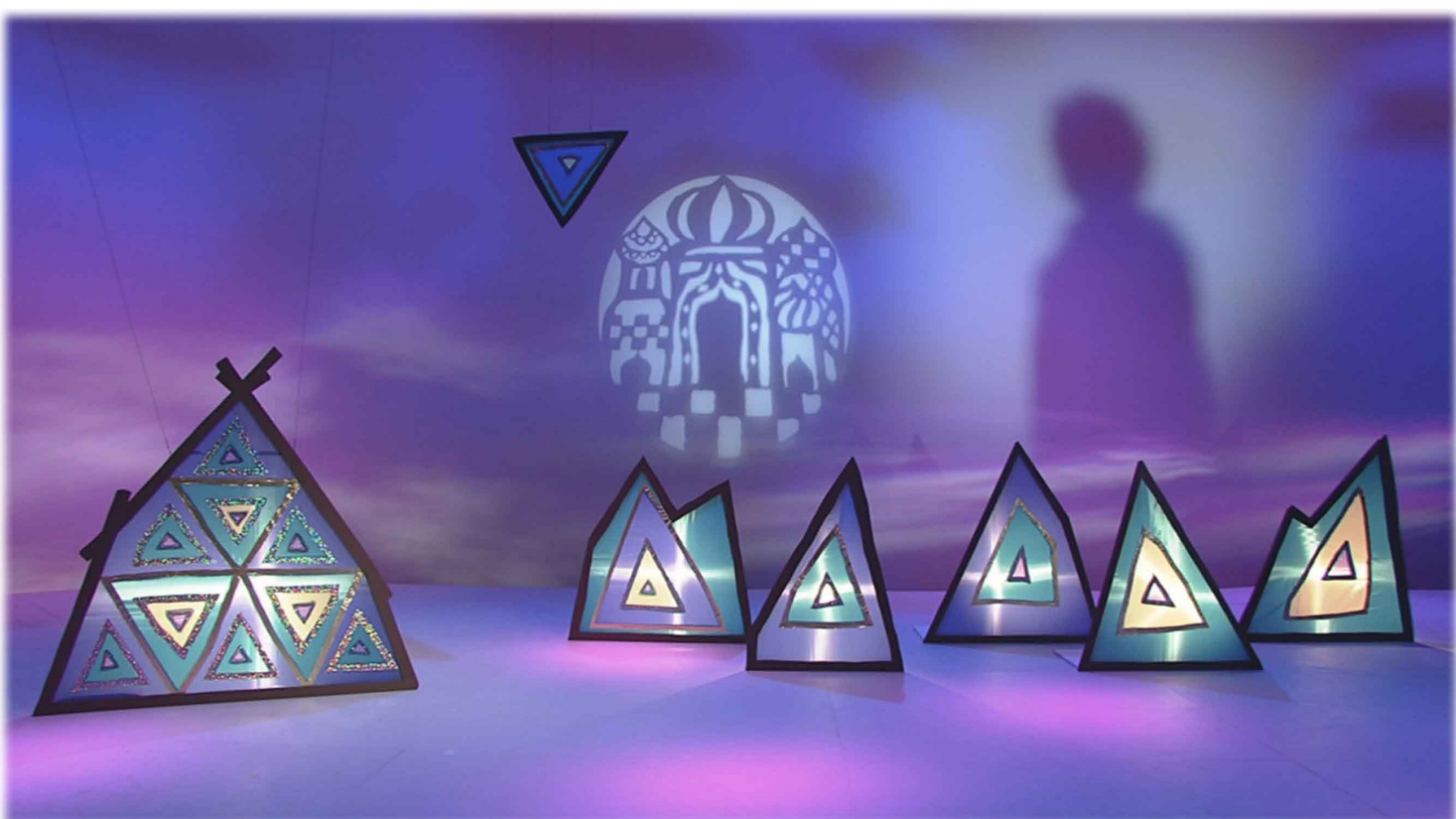


アラジンは、まほう使いのふところから、ランプを取り出した。

そして、けんでひとさしして、まほう使いの息の根を止めた。

「ご主人さま、何かご用ですか？」

「ああ。きゅうでんと、つまとわたしを、元通りの場所までつれて行ってくれ」「かしこまりました」





こうしてアラジンは、ふたたび、おきさきと
幸せにくらした。
今度こそ、めでたし、めでたし。

